

雅鶉雄鶉牝庫是也。

〔段注說文解字鳥^{四上}〕鳥長尾禽總名也。釋鳥音義引長尾羽衆禽總名也。按衤部云禽走獸總名此不

則然渾言象形鳥之足侶匕从匕。鳥足以一該二能鹿足以二該四都了切二部凡鳥之屬皆从鳥。

〔段注說文解字鳥^{四上}〕雀鳥之短尾總名也。短尾名佳別於長尾名鳥云總名者取數象形十五部凡佳之屬皆从佳。

〔安齋隨筆前編十四〕一鳥佳字 玉篇に鳥丁了切說文ニ長尾禽總名とあり鳩鶉等は長尾なる

ゆへ鳥ニ从フを正とすべし佳字玉篇ニ之惟切鳥短尾之鷄名とあり雁雀等は短尾なるゆへ佳に从フを正とすべし又鳥字ノ注飛禽總名とあり是は尾の長短に拘らず羽有て飛ぶ鳥の總名を鳥と云依之短尾なる鳩雁鶉をも鳥に从て鳩鶉に作る也。

〔類聚名義抄^九禽^{音琴}〕〔同鳥^九〕鳥鳥鳥通今正

〔圓珠庵雜記〕鳥は、人のとりてかひもしくひもすれば捕か。

〔日本釋名^{鳥中}〕鳥 とは飛也、りはかける也、るとりと通ずとびかけるなり。

〔東雅^{禽十七}〕禽鳥の類をトリといふ古語にはまたトとのみもいひしかば、そのリといひしは詞助

也とこそ見えたれ、飛翔をトブといひ捷疾をトシといふ是等の語、鳥によりていひし所なるにや、又其捷くして飛びぬれば鳥といふ名のありけるにや、今はた其詳なる事を知るべからず、今

朝鮮の方言に鳥讀てチヨといふが如きもトといふ聲の轉せしに似たれど是等は彼國の方言にもあらず其の字を讀むの音なれば此のことばのかしこに傳はれる所とも聞えず

〔倭訓栞^{前編十八}〕とり 鳥をいふ、飛集^{ホカ}の義にや、俗にとりはくふとも、どりくふなといふは、骨のあたり、いたつて赤き肉のあるをとりといへり、とを濁り呼り、

〔海人藻芥〕大鳥ハ白鳥鴈雉子、鳴此外者不備供御ナリ、小鳥ハ鶉雀雀、鳴此外者供御ニ備ヘズト云